主題：雅歌に描写されているような勝利の生活

メッセージ　6

第二段階で勝利を得る（３）

キリストのからだのために十字架を経験して自己から解放される

聖書：雅 2:14-15．ローマ 6:6．マタイ 16:24．ピリピ 3:10．エペソ 2:16．詩 43:4 前半

Ⅰ．「岩の裂け目、がけの隠れ場にいるわがはとよ。／わたしに顔を見せなさい。／あなたの声を聞かせなさい。／あなたの声は愛らしく、／あなたの顔は美しい」――雅 2:14：

Ａ．キリストは彼の愛する者が十字架に、すなわち、「岩の裂け目」に、また「崖の隠れ場」にとどまることを願っています―― 14 節前半：

１．新約で、十字架の主要な意義は苦しむことではなく、死に置かれることです――Ⅱコリント 4:10-12．詩歌 461 番。

２．キリストは、わたしたちが絶えず十字架につけられた状態にとどまることを願っています――ピリピ 3:10。

Ｂ．自己を対処することでの十字架の働きには三つの面があります：

１．わたしたちは、わたしたちの古い人がキリストと共に十字架につけられたという啓示を持つ必要があります――ローマ 6:6．Ⅱコリント 5:14。

２．わたしたちは、わたしたちがすでに十字架につけられたという成就された事実を承認し、認識し、受け入れる必要があります――ローマ 6:11．ガラテヤ 2:20。

３．わたしたちは、キリストが成就し、自分が承認した彼の死を自分自身に適用する必要があります。これが十字架を負うことの正しい意義です――マタイ 16:24．ガラテヤ 5:24：

ａ．適用はその霊の中で、その霊によって遂行されなければなりません――ローマ 8:13。

ｂ．わたしたちがその霊の中で生き歩いているとき、その霊はキリストの死をわたしたちに適用します――ガラテヤ 5:16, 25。

Ｃ．キリストの死に同形化されるとは、キリストの死をわたしたちの原型とすることです――ピリピ 3:10：

１．神はすでにわたしたちをキリストの死の原型の中に入れました。そして日ごとに神はわたしたちを原型に入れ、この死に同形化しつつあります――ローマ 6:3-4。

２．わたしたちの生活はそのような原型に同形化されるべきです。すなわち、自分の人の命に死に、神聖な命に生きるべきです――ガラテヤ 2:20．Ⅱコリント 4:10-11。

３．わたしたちの環境に自分をこの原型の中に押し込ませるなら、わたしたちの日常生活はキリストの死の形の原型に入れられます――ローマ 8:28-29。

Ⅱ．「わたしたちのために、／ぶどう園を荒らすきつね、／子ぎつねを捕らえてください。／わたしたちのぶどう園は花盛りだからです」――雅 2:15：

Ａ．キリストは彼の愛する者を召して、彼女の特異性、習慣、内省（子ぎつね）に気づかせます。内省は彼の愛する者の復活（花盛りのぶどう園）を荒らします。

B．わたしたちの天然の人は偏り、ゆがんで、おもにわたしたちの特異性に現されます——使徒 13:13．Ⅲヨハネ 9-10 節：

1．特異性はわたしたちの天然の存在の究極の表現、わたしたちの天然の命の最後で最終の表現です。

2．特異性はわたしたちの存在の最強の管理者、指導者です——参照、箴 21:1。

3．わたしたちの特異性は内側の隠された要因であり、キリストを経験しキリストを生きることから妨害します——参照、ピリピ 1:19-21 前半。

4．わたしたちの内側のキリストのための立場は、わたしたちの特異性によって狡猾に密かに奪われ、占有されてきました。ですから、特異性はわたしたちの存在における恐るべき反キリストです——参照、エペソ 3:16-17 前半。

5．わたしたちの内側の分裂的な要因は特異性です。それはすべての外側の分裂の根です——使徒 15:36-39。

C．わたしたちは十字架によって特異性から解放されます。自分の自己と特異性を進んで十字架につけようとするなら、復活が続きます——マタイ 16:24．雅 2:11-13。

Ⅲ．わたしたちは「十字架を通して‥‥一つからだの中」にいます——エペソ 2:16：

A．からだは自己に相対します。からだの敵は自己です——コロサイ 2:18-19, 23：

1．からだのビジョンを見てからだを実行することの妨げは自己です—— 18, 23 節。

2．からだの建造に対する最大の妨げは自己です——マタイ 16:18, 24。

3．からだの中で建造されようとするなら、自己は罪定めされ、否まれ、拒絶され、捨てられなければなりません——ルカ 9:23-24。

B．十字架の働きはからだをもって究極的に完成し、わたしたちをからだの中にもたらします——エペソ 2:16．ローマ 6:6．8:13．12:4-5：

1．十字架はわたしたちをからだの中にもたらし、からだの範囲の中で活動します。からだは十字架が働く領域となります——エペソ 2:16。

2．からだの制限はわたしたちの自由を取り去り、わたしたちを十字架に追いやります。

3．わたしたちの自己が十字架によって徹底的に対処されてはじめて、わたしたちはからだの生活の実際に触れ、からだを知ることができるようになります——マタイ 16:24-25．ローマ 8:13．12:4-5．Ⅰコリント 1:18, 23．2:2．12:12, 27。

Ⅳ．「こうしてわたしは神の祭壇、／わたしの最も喜びとする神に行き」——詩 43:4 前半：

A．祭壇、十字架は宇宙の中心です——エゼキエル 43:13-27。

B．十字架がわたしたちと神との関係の中心的な場所を占めるので、わたしたちはそれを避けることができません。わたしたちはみな、十字架を知り受け入れる点にまで来る必要があります——ガラテヤ 6:14．マタイ 16:24。

C．わたしたちはクリスチャン生活の至る所で十字架に出会いますが、神の建造の中心にある祭壇に来るとき、特殊な方法で十字架を経験します——エペソ 2:15, 21-22。

D．十字架の経験を通して、わたしたちは召会生活の実際にもたらされます——マタイ 16:18, 24。

© 2005 Living Stream Ministry

どの門を利用して居住区に入っても、結局、祭壇に来ます。例外はありません。祭壇は不可避です。わたしたちはみな、十字架につけられ、今や復活の中におられるすばらしい神・人を通してやって来ました。神に会おうとするなら、祭壇に来なければなりません。

祭壇は居住区の中心にあります。祭壇は、内庭の中心であるだけでなく、宮の全部の建物の中心です。

十字架を表徴するこの祭壇は、実は宇宙の中心です。人と神との関係に関する限り、地が中心です。人の住む地の中心はカナン、パレスチナの良き地です。なぜなら、それはヨーロッパ、アジア、アフリカの大陸を結び付ける中心であるからです。エルサレムの都は良き地の中心です、宮の居住区はエルサレムの中心であり、祭壇は宮の居住区の中心です。ですから、最終的に、祭壇は宇宙の中心です。祭壇は十字架を表徴するので、これは、十字架が宇宙の中心であることを意味します。

わたしたちが十字架の完全な意義を知っていることは、極めて重要です。表面的なキリスト教の教えによれば、十字架は、主イエスがわたしたちのために死なれた場所です。これは確かにそうですが、十字架はこれよりはるかに多くを意味します。宇宙の中心で、十字架は、神、人、全被造物のすべてを含む死を表徴します。十字架上での主イエスの死は、単に一人のパースンの死ではありませんでした。それは、神、人、全被造物を巻き込むすべてを含む死でした。

神が宮から来て人に会われる時、同じように祭壇に達します。ですから、祭壇は宇宙の中心であるだけでなく、人と神、神と人が会う場所でもあります。一人の人が北の門を通って来て、もう一人が南の門を通って入るなら、いずれも最終的に祭壇で神に、また互いに会うでしょう。

神は彼の住まいから出て来て、十字架へ行き、そこで死なれました。まず、彼は彼の住まいを離れて、ベツレヘムで生まれました。地上で三十三年半の間生きた後、彼は祭壇に、十字架に行かれました。彼はそこで死につつあった時、一人ではありませんでした。彼は受肉を通して、彼はご自身の上に人を着られました。ですから、彼が十字架上で死につつあった時、人もそこで死につつありました。これは、神と人が死の道において十字架上で会ったことを示します。

しかしながら、神は死に影響されることはあり得ません。彼はどれほど死を経過されても、同じままです。死は実は、彼が解き放たれるのを助けるのです。神は彼の住まいから出て来て、十字架へ行き、そこで死んで、彼の中にあったものを解き放たれました。一粒の麦を例証に用いるとよいでしょう。一粒の麦が地にまかれる時、それは死にます。この死は恐ろしいでしょうか、それともすばらしいでしょうか？　わたしたちは、一粒の麦の死はすばらしいと言うべきです。なぜなら、この死がなければ、穀物の中のすべての豊富と美しいものが、解き放たれることはあり得ないからです。こういうわけで、一粒の麦の死は恐ろしいのではなく、すばらしいのです。同じ原則で、死は神にとってすばらしいのです。主イエスは言われました。「一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それは一粒のままである。しかし、それが死んだなら、多くの実を結ぶ」（ヨハネ十二・二四）。彼はご自身のことを、地面に落ちて死に、多くの穀物に増殖されようとしている一粒の穀物として語っておられました。彼の死によって、彼の内側の神聖な命の豊富が解き放たれました。神は命であり、復活でさえであるので、死によって終わらされることはあり得ません。人であるものは何であれ、終わらされ得ますが、神であるものは何であれ、死を通して解き放たれます。今やわたしたちは、神が祭壇、十字架へ行って、そこで死なれた時、神の命が解き放たれたのを見ることができます。

主イエスが死なれた時、人も死にました。この死は人の終結を意味しました。人と関係があるすべての消極的なものは、十字架上で終わらされました。主を賛美します、わたしたちはみな十字架上で終わらされました！　十字架上での主イエスのすべてを含む死によって、神のすべての豊富が解き放たれました。十字架上でのキリストの死は、神にとってすばらしい解放であり、わたしたちにとってすばらしい終結でした。わたしたちはみな、祭壇のこのビジョンを必要とします。わたしたちは、年齢が幾つであっても、みな十字架上で同時に終わらされたことを見る必要があります。神の豊富がそこで解き放たれ、すべての消極的なものはそこで終わらされました。ですから、十字架上でのキリストのすべてを含む死は、わたしたちの終結と神の解放でした。

わたしたちは、クリスチャン生活において至る所で十字架に遭いますが、神の建物の中心にある祭壇に来る時、特別な方法で十字架を経験します。中心にある祭壇に来ることは、わたしたちであるすべてと、持っているすべてが、十字架で終わらされたのを認識することです。わたしたちはここで、十字架についての単なる表面的な知識だけではなく、十字架の明確な経験を持ちます。主との交わりの中で、わたしたちは、明確な方法で十字架に触れ、神がもはや天然の人の中で生きさせないと感じる点にまでもたらされます。これはわたしたちに、大きな打開と、十字架への絶対的な服従を持たせます。その結

果、わたしたちは天然の命が何であるのか、旧創造がはがされるとは何を意味するのかを知ります。これは、中心としての十字架の経験です。

わたしは、わたしたちの多くが十字架についてメッセージを聞いたのに、十字架につけられた命を生きている人はごくわずかであることを深く悲しんでいます。例えば、わたしたちは、結婚生活で十字架につけられた命を生きていません。結婚した兄弟と妻が互いに議論するなら、これは、彼らが十字架につけられた命を生きていないことを示します。彼らが十字架につけられた命を生きているなら、互いを責めたり、自己弁護したりしないでしょう。十字架につけられた命を生きている人は、責められたり非難されたりする時、自己弁護しません。彼らは十字架の死を通して、アダムの命と旧創造の終結を経験し、十字架を通して解き放たれた、神の豊富と神の神聖な要素を享受します。

何人かの人、特に青年たちが、祭壇についてのこの言葉を聞く時、おびえて、主を愛し追い求めることをしないほうがよいと思うかもしれません。彼らは、祭壇に着いて全焼のささげ物になることは危険であると恐れます。

しかしながら、わたしたちは、主がわたしたちをあわれんでくださったので、彼を逃れることはできないことを認識する必要があります。わたしたちは、自分の意志で救われませんでした。その反対に、この世でさまよっていて、門を通って入って行くつもりがなかった時、主はわたしたちに門を通らせられました。自分の選択から離れて、わたしたちはキリストの中へと信じました。これは絶対に神の選び、あわれみ、顧みをもってわたしたちに届くという事柄です。原則は、主を愛し、彼を追い求めることでも同じです。もし主を信じ、愛し、追い求めることをしなかったなら、わたしたちは不安で満足がないと感じるでしょう。しかし、主を愛し彼を追い求めることをすればするほど、ますます満足します。これはまた主のあわれみの事柄です。わたしたちへの彼のあわれみと、わたしたちの内側での働きのゆえに、わたしたちには前に進む以外に選択の余地はありません。わたしたちは引き返すことはできません。もし祭壇に向かって進まず、むしろ外庭に戻ろうとするなら、不安を感じるでしょう。ですから、わたしたちは前進し続けて、祭壇に到達する必要があります。

最終的に、主によって終わらされ、滅ぼされさえする祭壇の上で、霊的であり、主を追い求める者はすべて終わります。表面上は理由もなく、主は彼らを傷つけて、彼らからすべてをはぎ取られます。神は、わたしたちであるすべてと持っているすべてを死に渡されます。ガイオン夫人はこれを経験して、神は自分に十字架を与えられたと言うことができました。わたしたちは主を愛し、彼を追い求めるので、遅かれ早かれ十字架に遭います。それはわたしたちを傷つけて、すべてを死にもたらします。わたしたちは、たとえそうする気持ちがないとしても、死に移ることを強制されます。

わたしたちは一度限りで十字架を経験するのではありません。わたしたちは何度も十字架を経験します。主を追い求める者は、至る所で十字架に遭います。ある時は、子供たちを通して十字架に遭います。またある時は、配偶者を通して、あるいは病を通して十字架に遭います。他の時は、召会を通して、あるいは同労者を通して十字架を経験します。十字架が至る所にあるのは、わたしたちが十字架を経過して、神と接触しなければならないからです。主に感謝します、神はわたしたちに十字架を与えてくださり、十字架はわたしたちに神を与えます。最も神を愛し、最も彼を経験する者は、十字架を経験した者です。

わたしたちは、祭壇を経過してはじめて、宮に来ることができるという事実に印象づけられる必要があります。祭壇は十字架を表徴しますが、宮はキリストと召会、すなわちキリストのからだを表徴します。十字架、キリスト、召会は、新約だけでなく、全聖書の中心的な主題です。まず、わたしたちは祭壇、十字架に来て、次に宮に来ます。これは、十字架なしに、召会を持つことはできないことを示します。十字架の経験を通して、わたしたちは召会の実際にもたらされます。わたしたちは十字架を経過してはじめて、真の召会生活を持ちます。一方で、救われた者として、わたしたちは共に集まって召会生活を実行します。もう一方で、わたしたちは十字架を経過してはじめて、召会の実際を持つことができます。

わたしたちはみな、十字架を知り、受け入れる点にもたらされる必要があります。その時、わたしたちが十字架を経過すれば、肉、旧創造、自己、天然の命を持つ天然の人は、すべて対処されます。わたしたちの人性にその源があるものはすべて、十字架で終わらされます。その時、わたしたちは召会の実際を持ちます。その時、わたしたちは主にある人であり、真の組み合わせを持ち、調和、安息、キリストの臨在を持ちます。これは、神が住まわれる場所である宮です。これはキリストの表現、召会の実際です。